

1. 教育の責任

- * 新しい命を育み家族を形成していく周産期にある母と児の身体的・心理的・社会的特性をふまえ、そのウェルネスの維持・増進のために必要な看護の知識・技術・態度を教授する。
- * 女性とその家族に関わる看護援助を、エビデンスに基づいて教授する。

2. 教育の理念

- * 国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護ができる看護教育の一翼を担っている。
- * 学生の自律性を重んじて、学生の学習する力を信じて待つことを大切にしている。
- * 教科書やその他の専門書より、写真や図を意識的に取り入れ視覚的に分かりやすい講義資料になるように心がけ、学生自身が教科書や資料を用いて学習しやすいように環境を整える。講義などで得た知識を使って実習で看護を展開できるよう、知識と実践をつなぎ、気づきを言語化できるように対話を通してサポートする。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

2年次のキャリアプランニングで助産師の魅力について伝え、母性健康看護学概論、グローバル社会とウイメンズヘルスでは、人間のセクシュアリティの生理的、社会的、国際的な特徴を教授できる学生の学習環境を整えている。3年次の母性看護学援助論Ⅰ・母性看護学援助論Ⅱでは、講義と演習で妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の知識や看護実践技術を教授したうえで、実習で実際の対象への看護の展開ができるよう、教授し学習活動が積み重なるようにしている。4年次の統合実習で、これまでの看護学の学びを活かし、対象への看護が自立して展開できるようにしている。また、エビデンスにもとづくケアを意識できるよう、文献を用いてカンファレンスを実施している。

【講義・演習・実習のつながり】

医療英語を学ぶ国際看護学部として、母性看護学領域の医療英語を用いる機会を多くするため、講義のパワーポイントに日本医学医療検定の単語も標記して関連づけて触れられるよう工夫している。講義では、単元に応じた最新の政府統計や国際機関刊行物、学術論文から引用した資料、これまでの経験（青年海外協力隊での活動経験など）を活用し、学生の知的好奇心を喚起しつつ、母性看護学の最新動向を踏まえている。援助論では、周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）のウェルネスに焦点をあてた看護実践が展開できる能力を、講義や演習などを通じて教授している。英語資料も活用し、国際看護学部の中の母性看護学領域として役割を担っている。実習と連動している援助論Ⅱにおいては、適時に必要な技術演習を学内のみならず母性看護学実習施設の一部借りて行うことで、実践的な技術の習得に役立つことやカンファレンスによる振り返りも時機を逸せず行う他、必要時には、専門性を持ったゲストスピーカーとのコミュニケーションを十分に取ながら、効果的に学外の教育リソースを活用している。

4. 教育の成果

- * 学生アンケートも常に平均を高く上回っており、学習満足度は高い。講義・演習・実習での発表姿勢や出席状況、指導者の評価も良好で、看護する必要性を理解し、周産期にある母と児への看護実践の知識・技術・態度の各面で学生達は順次育っていると見える状況である。

5. 改善への努力と今後の目標

- * 医療英語を学ぶ国際看護学部として、母性看護学領域の医療英語を用いる機会を作るよう意識をしてきたが、今後、実際に使用できる場として、MOUの学生と協同して演習を行えるなど学習の場を検討していく。
- * 講義や演習など、準備などの時間を意識して行う。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：山内 こづえ 作成日：2023年12月19日

* 実習に関して、学生の学びを深めるため帯同し臨床現場での指導ができるよう、体調管理を十分に行う。

【添付資料】

A large rectangular area that has been redacted, appearing as a solid light pink color. It is positioned below the '添付資料' (Attachments) header.